

南あわじ市 平成 19 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(団体用)

I 基本事項

整理番号 263

事業名	南あわじ市手をつなぐ育成会		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	健康福祉部	福祉課		款	民生費・3款
電話	0799 - 44 - 3002		項	社会福祉費・1項	
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)	目	障害者福祉費・2目	
	<input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務				
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	安らぎづくり_元気あふれ_住んで快適なまちづくり_			
	まちづくりの目標	子どもを産みたい_育てたいまち[子育て]			
	施策目標	すべての人が安心してまちに出て、日常生活や地域での交流が行える環境をつくる			

II Plan&Do (計画・事業内容、団体内容、投入資源)

事務概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人を、構成員内訳) 南あわじ市手をつなぐ育成会(知的障害者をもつ保護者)				構成人数(人) 90
		活動目的(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入) 知的障害者をもつ保護者の連帯を深めることにより、知的障害者の福祉の充実、強化並びに社会福祉の増進に寄与すること。				
	実施内容	(主な事業、活動内容等) 定例会(毎月2回)、親子バスツアー(年2回)、各種スポーツ大会参加、福祉施設見学(年2~3回)、その他研修会(年2~3回)				
	団体の概要	(どのような団体か、活動目的、活動内容など) 知的障害者をもつ保護者が会員相互の親睦を図り、知的障害者の福祉の充実、強化並びに社会福祉の増進を図る。				
		事務局の所在 (直接事務執行部署)	<input checked="" type="checkbox"/> 補助団体	<input type="checkbox"/> 市役所	<input type="checkbox"/> 市単位 ()	<input type="checkbox"/> 旧町単位 ()
					<input type="checkbox"/> 旧村単位 ()	
	補助金算出根拠	事業内容及び、活動等内容で算出。				
補助交付期間	<input type="checkbox"/> 平成	年度	~	平成	年度	<input checked="" type="checkbox"/> 設定なし
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯)					
	<input checked="" type="checkbox"/> 旧緑町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧西淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧三原町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から 旧三原郡の組織があったので、市に引き継ぐ。					

		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
資源配分 インプット	直接事務費 (千円)	350	350	350	320
	手をつなぐ育成会運営補助金	350	350	350	320
	財源 (千円)				
	国				
	県				
	起債				
	その他				
	一般財源[A]	350	350	350	320
	人件費(正規職員)[B] (千円)	0	0	0	0
	平均人件費(1日当り)	30.7	29.9	30.1	30.1
	事業量1(事業に要した日数)				
	事業量2(事業に要した人数)				
	年間経費([A]+[B])	350	350	350	320
	「構成人数」一人当り経費 (千円)	3.9	3.9	3.9	3.6
受益者人数(90)1人当り経費(千円)	3.9	3.9	3.9	3.6	
経費に関する 補足説明					

Ⅲ Check (事業の自己評価・一次評価)

費用対効果	(費用対効果の分析、問題点・課題などを記入。) 事業内容等から判断し、適切である。	自己評価 (5点評価)
		4
必要性	公共性の高低 <input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低 (公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 知的障害者をもつ保護者相互の団体として、市の援助が必要である。	自己評価 (5点評価)
		5
総合評価	自己評価をふまえた現状分析 知的障害者をもつ保護者として、会員相互の親睦や悩みの緩和などのため、活動を支援することは必要である。	<div style="text-align: center;"> <p>評価グラフ</p> <p>費用対効果 必要性</p> </div>

IV Action&Plan (改善・改革の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 交付方法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 交付方法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減
	<p>知的障害者をもつ保護者として、会員相互の親睦や悩みの緩和などのため、活動を支援することは必要である。</p>	<p>同左</p>
(現状維持以外の改善方法)		
改善によって期待される効果		
(現状維持の場合も記入)	<p>仮に補助金、交付金を廃止した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面)</p> <p>発達障害等の知的障害を持つ子供は増加傾向にあるが、若い夫婦の家庭では手をつなぐ育成会に入会していない人が多い現状です。知らないという人もいるので、啓発活動を活発にしたいと考えています。また参加しやすいイベントを増やして交流を図り、知的障害者の子育ての悩み等を話し合ったりして精神的ストレスを軽減したいとも考えています。啓発等をする際の郵便代などの事務費を節約すると役員に負担がかかってしまいます。知的障害者の世話をしながらになるので、役員の負担が増えるのは避けたい。上記のことから、補助金が減額されると活動の場が減り、知的障害者とその保護者は家の中に引きこもりがちなる等の問題が発生する可能性もあるため、損失は大きい。</p>	